

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 附属幼稚園・園長

氏 名 杉浦 英樹

研究期間 平成28年度～平成29年度

研究プロジェクトの名称	遊び込む子ども—教育課程の創造—
研究プロジェクトの概要	<p>本園では、幼児の主体的な遊びの経験を保障し、幼児なりに力を発揮しながら思いや願いを実現させていく幼児主体の保育実践を行っている。その遊びを一層充実させ、より質の高いものにしたいと考え、平成25～27年度に「遊び込む子ども—学びの基盤に着目して—」というテーマを設定し、研究に取り組んだ。その研究において、当園における遊び込む姿を定義し、遊び込む姿を支えるための教師の援助と環境構成を探った。そして、遊び込むことによって、「がんばる力」「かんがえる力」「よりよくかかわる力」「ことばの力」の4つの力が、絡み合い、総合的に育つのではないかと見えてきた。そこで、遊び込む子どもの姿を手がかりとしながら従来の教育課程を見直し、再編成することで、これからの新しい時代を自らの力で生き抜く子どもを育む教育課程を提案できるのではないかと考え、2年間研究に取り組んだ。</p>
研究 成 果 の 概 要	<p>研究1年目（平成28年度）は、各教育期におけるねらいや教師の援助、環境構成、本園の3つの教育活動のうちの「遊び」について、事例を分析しながら検討し、年間指導計画の素案を作成した。そのなかで、4・5歳クラスの最初の期（4月～5月中旬）は、たとえ在園児であっても進級に対して大きな不安を抱いているため、幼児が安心感を得ることを第一に考えて援助を行うことが大切であることが再確認できた。また、5歳クラスの最後の期（1～3月）は遊び込みの質の高まりが停滞するが、それは園行事である発表会への取組が多く時間を占めるからであり、これまでの遊びで身に付けた力を繰り返し使い定着させている時期ではないかという見えてきた。</p> <p>研究2年目（平成29年度）は、従来の活動のうち「みんなでかかわる活動」と「生活行動」の内容や教師の援助について、これまでの内容を整理し見直しをした。また、事例や指導資料から教師のねらいや期待する幼児の姿を各期の「こんなふうになってほしい」という項目に付け加えた。研究を進めていく中で、現在行っている教育活動を分かりやすく表現するためには、従来の3つの活動名や3つに分類するための観点、教育時間の表現方法を変更する必要があると感じた。そこで検討を重ね、活動名を「あそび」「みんな」「せいかつ」と変更し、観点等も修正をした。</p>
研究 成 果 の 発 表 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目の成果については、平成28年10月5日に本園において第24回幼児教育研究会を開催し、上述の成果を発表した。また、平成29年3月に研究紀要を発行した。</li> <li>・2年目の成果については、平成29年10月11日に本園において第25回幼児教育研究会を開催し、上述の成果を発表した。また、平成30年3月に研究紀要を発行した。</li> </ul>
学 校 現 場 や 授 業 へ の 研 究 成 果 の 還 元 に つ い て	<p>新潟県教育委員会主催の保幼小合同研修会、県立教育センター主催の幼稚園等新規採用教員研修、本学の学習場面臨床学の実地指導等において、講師または指導者として本園職員が参加し研究の成果を伝えた。来年度も、全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会での事例発表や新潟県教育委員会主催の幼稚園等新規採用教員研修の保育参観研修の指導者として、研究成果を還元していく予定である。</p>